

人生の転機

小峰 尚（'78法）

小生は昭和53年に法学部を卒業したが、卒業式といっても当時は卒業証書授与式が法学部であっただけで、大学5年間（法学部で一年留年した）をともに過ごした友人達数名と談笑して帰宅したことをうっすらと覚えている程度で、30年という年月がたったせいも、卒業当時のことはあまり詳しく覚えていない。

当時は自分が転職するなどとは夢にも思わず、「一生懸命仕事をして日産自動車の役員になればいいなあ」くらいにしか考えていなかった。日産自動車で国内営業、イリノイ大学、ワシントンDC勤務と部門を越えた異動をしたにもかかわらず、順調に課長になれたものの、会社の経営がおかしくなり、管理職の報酬がカットされ、人生設計に狂いが生じたところから、真剣に、自分の将来、第二の人生をどうするか考え出したものである。

1994年、東京モーターショーの事務局の業界団体に資料部長として出向を命じられた小生は4年間、自動車ガイドブックの編集長、プレスセンター長といった「実業」の面白さを体験して、日産自動車に復職したら、営業に戻りたいと思っ

ていた。1986年から1994年までワシントン事務所を含め、渉外業務が長かったからである。1998年、復職したのは広報部社会文化室長というポジションで、経営環境厳しい当時は、予算規模も小さく、社会貢献活動として、童話と絵本のグランプリなどのほかは、年間10件程度の寄付審査をするのが仕事であったが、最後のご奉公とばかり、NPO施行法に合わせて、「NPOラーニング奨学金制度」（NPOでインターンシップとして働く学生を集めて、NPOに紹介するユニークな制度）の創設に全力をあげた。当時の経理部の担当課長に「こういうご時世に予算があるからといって無駄なことを、、、」とずいぶん抵抗されたが当時の塙社長の了解を取り付けて、何とか制度開設にこぎつけた。幸いに、同制度はゴーン社長に認められて小生が退職後も続いており、今年で10期生決定したとのことであり、自分を育ててくれた日産自動車に恩返しのできたものと自負している。

1999年春に、トヨタ出身のヘッドハンターから二人で自動車業界の案件を席卷しようと誘われたのである。思い出せば日産自動車のリクルータとして大学の後

輩を多数入社させた成功体験もあり、自分には適性があるのではないかと思い始め、真剣に第二の人生としてかけてみる仕事ではないかと結論をつけて、応募したところ、同社が採用しているリクルータの適性試験を受け、適性ありとの結果が出た。ある意味では、迷いに迷った末の決断であったが、客観的なテスト結果に従っておけば、後悔はしないだろうと、ついに22年間勤めた日産自動車を退職し、転職する決心をしたのである。

さて、ヘッドハンターというか、言ってみれば、人様の人生の転機をプロデュースする仕事を始めたわけであるが、今までに8年間で80社以上のクライアントから依頼を受けて、100名以上の方の転職のお世話をし、現在9年目を迎えようとしている。日産自動車から転職した外資系のエグゼクティブサーチファームでは5年間お世話になり、独立したのが2004年夏。日産自動車のワシントン事務所時代に毎日眺めて通勤していたポトマ

ック川から名前をとり、小さなバーチャルオフィスから始めた会社の経営も順調に推移している。

今までに思い出に残る大きなディールのトップスリーは、一番目は産業再生機構の最高幹部、二番目は大手自動車メーカーの社長を外資系の手部品メーカーの上級顧問、三番目は大手外資系ITメーカーの日本法人の専務を教育関係の企業の社外重役へ紹介するといったところである。いずれも、小生の話聞くために会って頂けただけでもありがたい話で、その後順調に話がまとまったのは、まさに運が良かったと思っている。

最近のクライアントは外資系のみならず上場を目指しているベンチャーから、事業拡大に伴う人材不足に悩んでいる創業経営者から直接依頼を受けることも多く、今日もまた新たな人生の転機を人に勧める毎日である。

(ポトマックアソシエイツ代表取締役)